

2015年度第1回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-81)

氏名 (所属) : 板野敬太 (東京大学大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻)

渡航先: ウィーン、オーストリア

目的: EGU General Assembly 2015 での研究発表

期間: 2015年4月12日~4月17日

本文:

この度、日本地球化学会「鳥居基金」により、渡航費用の一部を援助頂き、オーストリア、ウィーンで行われた EGU General Assembly 2015 (以下、EGU) に参加・研究発表したのでご報告致します。今年度の EGU は参加人数総計 11,837 名、参加国総数 108 カ国と非常に大規模なものであり、各分野の最先端の研究成果が活発に議論されていました。私は、超大陸形成、アフリカ大陸の構造発達について研究を行ってきたので、その内容について口頭発表を行いました。参加したセッションでは、様々な分野の方々から違った角度からの質問・コメントを頂くことができたので、今後の研究に活かしたいと思います。また、多岐にわたるセッションでもアフリカ大陸のフィールド、観測、モデリングの研究が多く報告されており、参加した意義を強く感じました。さらに、大陸地殻、太古代地殻に関する研究、特にシミュレーションを行っている研究が多く、大規模な学会だからこそ、普段聞けない分野の話聞くことが出来て非常に勉強になりました。なかには、更なる議論はもちろん必要でしょうが、パラダイムシフトとなり得るような内容の発表もあり、興奮覚めやらぬといった様子で質疑応答がなされていました。今後は、積極的にそのような議論のなかに加わるようになりたいと思います。

ポスター会場ではコーヒー、ワイン、オーストリアのビールが振る舞われ賑やかな雰囲気のもと活発な議論が行われていました。海外の同年代と交流を行えたことも刺激になりました。同じフロアには、学会期間に渡って行われたアート作品の制作・展示や、フォトコンテストの作品展示など様々な人が楽しめるものとなっていました。子供を連れての参加者も多く、託児エリアも開設されていて、日本の学会よりもオープンな印象を受けました。

今回、鳥居基金の援助のもと国際会議に初めて参加することができ、非常に貴重な経験を積むことが出来ました。この経験を糧として、更に研究に精進したいと思います。この場を借りて御礼申し上げます、ありがとうございました。

提出日: 2015年4月22日